

巻頭言

Open, Sesame

梅澤 俊一

(土佐リハビリテーションカレッジ名誉校長)

この度、土佐リハビリテーションカレッジでは紀要を発刊することになり、まことに時宜を得た快挙と思うのである。

それは、平成5年(1993年)4月開学以来10年の歳月を経て、既に6回の卒業生を世に送り出し、ようやく教育研究の充実に邁進(まいしん)している現在であるからである。

教えることの原点において、教えることは教えられること、つまり教えながら教えられていて、すなわち学ぶことである。学ばなければ教えることはできない。論語の巻第一、学而(がくじ)第一の冒頭(ぼうとう)が「子(し)の曰(のたま)わく、学びて時にこれを習う、亦(ま)た説(よろこ)ばしからずや。以下省略」である。つまり、孔子が申されたのは、「学んで適当な時期におさらいする、いかにも心嬉しことである、そのたびに理解が深まって向上するからである。」。

このようにして、日々学究を重ねた成果を公にするものが研究論文であり、紀要とは申すまでもなく学校や研究機関が定期刊行する研究論文集である。

「蒔かぬ種は生えぬ」そして芽が出たら、育てなければならない。土佐リハビリテーションカレッジは今まさにその時期に来ている。若木は自らの根を張って成長していかなければならない。そしてその成長の証としての研究論文の発表が脈々たる伝統となり、土佐リハビリテーションカレッジの教育の場に活力を与えるものであることを確信するものである。

‘Open, Sesame’ (開け、ごま)とは「アラビアンナイト」の中のAli Baba and the Forty Thievesの話に出てくる「開門、開扉」の呪文(じゅもん)で、つまり、目的を達するための奥の手であり、難関を切り抜けるまじないである。

土佐リハビリテーションカレッジの未来の扉を開くのは誰でしょう！ それは「紀要」のあなた自身であることは間違いないけれども、心にゆとりを持って、あらためて、「オープン、シィザミィ」！！も如何なものであろうか。

